

第5回小砂環境芸術祭

KEEVA

2026

美術・集落・風 — 小砂の森

## 目次

- 01 目次
- 02 ご挨拶
- 03 ARTMAP
- 05 アーティスト出品作家
- 11 関連企画展 出品作家
- 13 賛助作家
- 15 出品作品リスト
- 16 イベント
- 17 作品リスト
- 19 賞に関して・展覧会歴／賞歴
- 21 KEAT2026、破壊を前提としない日常のなかで
- 22 奥付け

第5回小砂環境芸術祭 KEAT2026 美術・集落・風—小砂の森

【会場】栃木県那珂川町小砂地区

【会期】2026年4月25日(土)～5月6日(水)

【時間】9時～17時 ※最終日のみ14時となります

【鑑賞】無料

【主催】KEAT小砂環境芸術祭実行委員会・NPO法人美しい日本の森と芸術

【後援】那珂川町・那珂川町教育委員会・那珂川町観光協会・下野新聞社

【協力】那珂川町馬頭広重美術館 小砂 Village 協議会 お母ちゃん Café

【問合せ先】実行委員会事務局 ホテル美玉の湯内

〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂 3102 TEL: 0287-93-0811 FAX: 0287-93-0315

【KEAT2023 実行委員会】委員長・藤田眞一／副委員長・村樫信行

委員・大川欽也、大野正勝、笹沼享一、藤田清、渡辺奈々

アートディレクター・海老塚耕一

総合プロデューサー・大熊貞雄

【出品作家】阿久津 溪／安藤 開／伊藤 夏葉／井上 修策／梅浦 康平／河本 蓮大朗／木下 敦也

齋藤 千明／齋藤 弥主子／柳澤 貴彦／若林 夏哉

【関連企画展出品作家】有坂隆二／岩本拓郎／高野 弘文／渡辺 豊重／渡辺 奈々

【賛助出品】海老塚耕一・木村爽陽

## ご挨拶

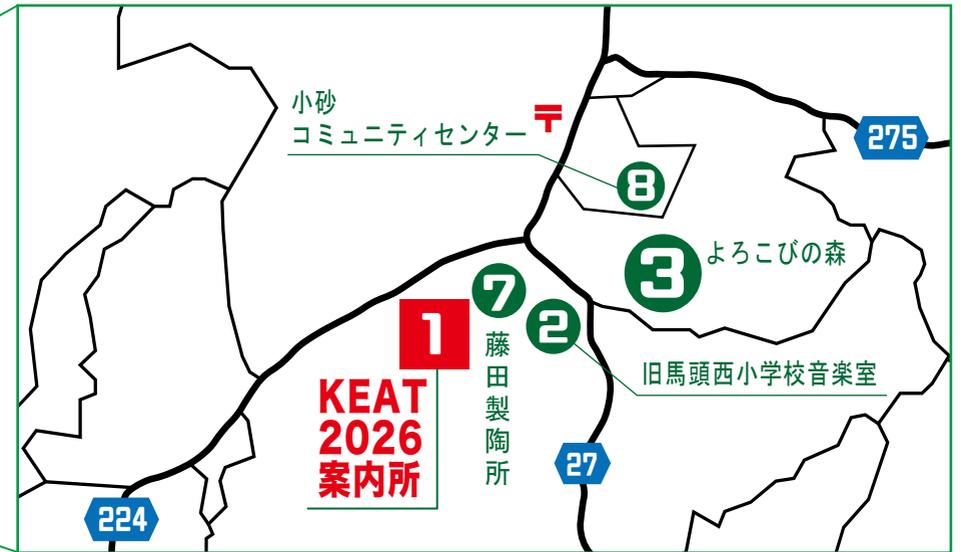
KEATとは Koisago Environmental Art Triennale の頭文字をとった略語で、キートと言います。設立目的は、日本の森林等の美しい環境や景観の存在への関心を広く一般市民に喚起するため、地域の美しい環境の中で様々な芸術活動を展開し、市民に広く芸術に親しんでいただくとともに、これらの芸術活動に参加する若手を中心とした美術家・芸術家を支援し、これらの活動を通じて日本の各地域社会での観光や地域振興、芸術振興に寄与することを基本目的に、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合から認定された栃木県那珂川町小砂地区の豊かな森林資源を生かし、里山全体を美術館—表現の現場とし「里山とアートの関係性」を提示するアートプロジェクトです。

野外に作品を展示するという事は、常に変化する環境—現実と、鑑賞者も制作者も、そして企画者も付き合うということになります。受け手—鑑賞者は、どの時間に作品と対峙するかにより、作品から訴えられる「事やもの」が異なるわけです。そこが面白いし、興味深い。たとえば、真夜中、漆黒の闇のなかで見る作品、月夜で見る作品の表情の違い、そんなことを考えるだけでワクワクしてきます。展示時間も決まり、照明も作品のことを考え的確に設備されている会場、そんなホワイトキューブにより制度化され、単純に誘導された鑑賞体験とは全く異質な体験を、開かれた野外ではすることとなります。

野外展とは従来の美術の制度から逃走する事で、美術を考える試みです。風が吹けば作品は揺れる。雨が降れば作品は濡れる。朝の光に輝くこともあれば、木々が作品の肌に影を落とすこともあります。つまり一度として同じあり方を、当たり前前に作品はしないということになります。あるいはできないと言っても構いません。いつも次にやってくる表情や多様な変化の中で、展示期間中いつでも自由に触れ観ることのできる作品は、静かに観られるその時間を待って、佇んでいます。

小砂の森は、そんな世界を繰り広げるのに、最適な場所です。単なる森ではなく、森を愛する人により、優しく手をかけられることで生きている森です。このような森を育んだ眼差しに感謝しながら、KEAT2026 を送り出します。

# ART MAP



**1 KEAT2026 案内所【藤田製陶所】**



〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂 2710

- 2 旧馬頭西小学校音楽室** 関連企画「豊重さんと栃木の作家たち」 **P** **VI**  
 有坂 隆二・岩本 拓郎・高野 弘文・渡辺 豊重・渡辺 奈々
- 3 よろこびの森** **P**  
 安藤 開・伊藤 夏葉・井上 修策・梅浦 康平・河本 蓮大朗・木下 敦也  
 齋藤 千明・齋藤 弥主子・柳澤 貴彦・若林 夏吹
- 4 いわむらかずお絵本の丘美術館** **P** **VI**  
 木村 爽陽
- 5 もうひとつの美術館** **P** **VI**  
 木村 爽陽
- 6 那珂川町馬頭広重美術館** **P** **VI**  
 海老塚 耕一
- 7 藤田製陶所** **P** **VI**  
 木村 爽陽
- 8 小砂コミュニティセンター** **P** **VI**  
 クロージングパーティー会場 5/6 (水) 14時～16時

## 【出品作家】

安藤 開

伊藤 夏葉

井上 修策

梅浦 康平

河本 蓮大朗

木下 敦也

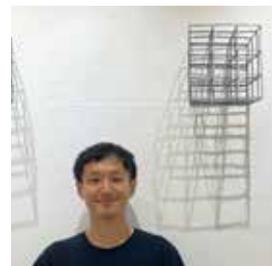
齋藤 千明

齋藤 弥主子

柳澤 貴彦

若林 夏欧

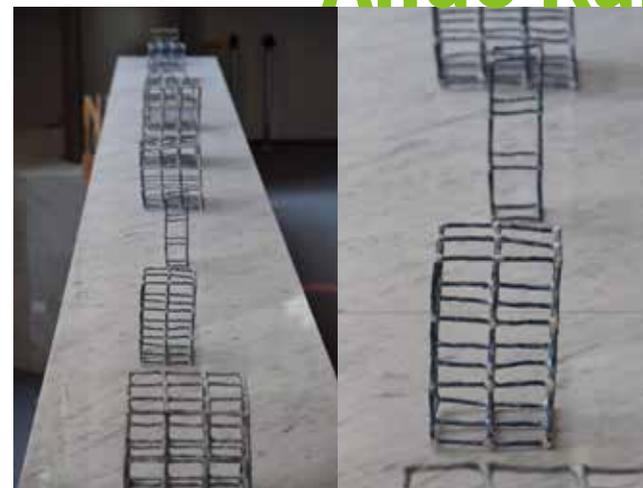
# よろこびの森



安藤 開

展示場所

**3** よろこびの森



(あんどう・かい) 1988年神奈川県生まれ。2015年多摩美術大学大学院美術研究科工芸専攻陶研究領域修了。

## Ando Kai



伊藤 夏葉

展示場所

**3** よろこびの森



(いとう・なつは) 23歳で染色工房「藤本染工芸」にて藤本義和氏に師事し、型染めの技法を学ぶ。現在は、着物と帯を中心に工芸・アート・古美術といった多領域を横断し、それらの交点から新たな作品を提示する活動を展開している。

## Ito Natsuha

## Inoue Shusaku



井上 修策

展示場所

**3** よろこびの森



(いのうえ・しゅうさく) 1959年三重県生まれ。1984 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。卒業制作最優秀賞、安田火災美術団奨励賞、富嶽ビエンナーレ展、池田満寿夫記念芸術賞展優秀賞など受賞。2002年より毎年都内の画廊で個展を開催。

## Kawamoto Rentaro



河本 蓮大朗

展示場所

**3** よろこびの森



(かわもと・れんたろう) 2015年横浜美術大学工芸領域テキスタイルデザインコース卒業、2017年横浜美術大学彫刻コース研究生修了。織物の制作を中心に、染織独自の質感や色彩と、素材が持つ背景やストーリーを重要な要素とし、制作を続けている。

## Umeura Kohei



梅浦 康平

展示場所

**3** よろこびの森



(うめうら・こうへい) 東京生まれ。若い頃より絵画に関心を持つ。海外でアートに触れた経験を契機に制作を開始。現在は身体と他者の関係を主題に、具象と抽象のあわいに立ち上がるイメージと描く行為との対話を重ねている。近年は光や空間との関係にも関心を広げている。

## Kinoshita Atsuya



木下 敦也

展示場所

**3** よろこびの森



(きのした・あつや) 神奈川県生まれ。1996年 KOBATAKE 工房 (彫刻家・小島廣志 主催) を修了 (彫刻・版画)。主に建築廃材で制作。2017・2021・2023・2025年に ATELIER-K ART SPACE(神奈川県横浜市) で個展。

# Saito Chiaki



齋藤 千明  
展示場所

3 よろこびの森



(さいとう・ちあき) 1966年茨城県生まれ。1991年 東京藝術大学大学院美術研究科版画専攻修了。伝統的な水性木版技法を基軸として国内外で作品を発表。白鷗大学教授、鹿沼市立川上澄生美術館館長を務める。

# Yanagisawa Takahiko



柳澤 貴彦

展示場所  
3 よろこびの森



(やなぎさわ・たかひこ) 2015年桑沢デザイン研究所卒業。主な個展に「Pantascape」(東葛西1-11-6 A倉庫、東京、2025)、「Phantactal」(SOM GALLERY、東京、2025)など。「FACE展2023」戴前知子審査員特別賞受賞。

# Saito Yasuko



齋藤 弥主子  
展示場所

3 よろこびの森



(さいとう・やすこ) 2024年東京藝術大学大学院版画第一研究室修了。2024年ポーランドヴロツワフ美術大学大学院MFA修了。2022年三菱地所賞受賞。

# Wakabayashi Kao



若林 夏欧

展示場所  
3 よろこびの森



(わかばやし・かおう) 1977年東京生まれ。1999年文化学院文学科卒業。2009年造形活動を始める。2009年個展「海月の日常」ギャラリーブロッケン(小金井、東京)。2022年個展「若林夏欧 2022」うしお画廊。2024年個展「若林夏欧 - 鳥のうた」うしお画廊。

【関連企画展】

豊重さんと栃木の作家たち

【出品作家】

有坂 隆二

岩本 拓郎

高野 弘文

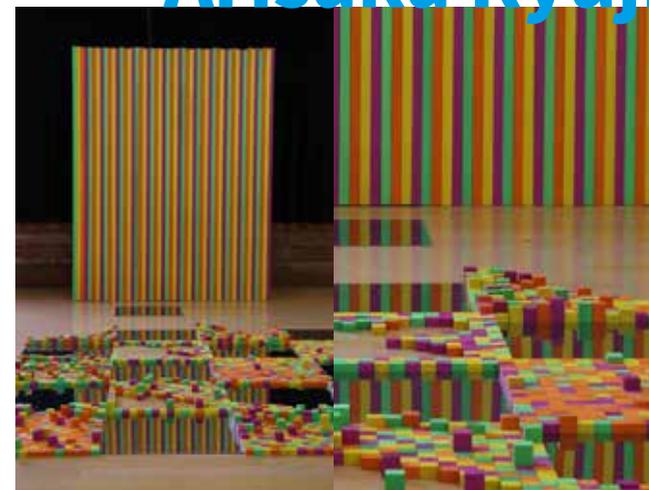
渡辺 豊重

渡辺 奈々

音楽室  
旧小砂小学校



Arisaka Ryuji



有坂 隆二

展示場所

2 旧馬頭西小学校音楽室

(ありさか・りゅうじ) 1952年栃木県生まれ。東京藝術大学日本画専攻卒。作品は小砂という土地、そして渡辺豊重さんの御魂に捧げたい。鹿沼市立川上澄夫美術館運営委員・もうひとつの美術館理事・元栃木県立美術館評議員。



Iwamoto Takuro



岩本 拓郎

展示場所

2 旧馬頭西小学校音楽室

(いわもと・たくろう) 1951年島根県生まれ。1975年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業、1977年同大学院版画専攻修了。東京国立近代美術館、山口県立美術館、栃木県立近代美術館等にコレクション。



## Takano Hirofumi



高野 弘文

展示場所

2 旧馬頭西小学校音楽室

(たかの・ひろふみ) 1968 年生まれ。幼少期より、栃木県烏山町（現在の那須烏山市）直井充氏に師事。銀座ギャラリー中沢にて個展数回。フィナル国際美術展。ARTEX Japan 等、数回出品。1999 年 ARTEX London・ARTEX Paris・Garelie ERYETTE PEYRE にて 2 人展。2000 年に Berlin JUST ART GALERIE にて 3 人展。



## Watanabe Nana



渡辺 奈々

【キュレーター】

展示場所

2 旧馬頭西小学校音楽室

(わたなべ・なな) 1965. 神奈川県生まれ。1990 年 日本クラフト展入選。1996 年渡辺奈々展「katachi」ギャラリー・プス。2000 年渡辺奈々展「風、薫る—Leaf」まるや工芸店〈下諏訪〉。2013 年「造形作家 渡辺奈々の世界」展画廊企画ギャラリーモテキ〈群馬県〉。2019 年渡辺奈々展「いつもここにいる」Gallery + Sushi 三郎寿司あまね。2021「ねこあそび」展に出品もう一つの美術館。



## Watanabe Toyoshige



渡辺 豊重

展示場所

2 旧馬頭西小学校音楽室

(わたなべ・とよしげ) 1931 年 -2023 年 東京都生まれ。第 12 回安田火災東郷青児美術館大賞受賞、第 24 回長野市野外彫刻賞受賞（長野冬季五輪彫刻作品）、2015 年「画業 60 年 渡辺豊重展」（川崎市市民ミュージアム、栃木県立美術館、岩手県立美術館、読売新聞社、公益財団法人岩手県文化振興事業団、美術館連絡協議会）。

### 【小砂環境芸術 KEA2026 特別企画】

### 「豊重さんと栃木の作家たち」によせて

2023 年 5 月 3 日第 5 回展開催中に他界した父・渡辺豊重は、第 1 回小砂環境芸術祭 KEAT(2013 年) から実行委員会の特別顧問をさせていただくなかで、本企画をこよなく愛し、支援し、さらに出品作家としても出品してきました。

父は 1990 年 11 月、59 歳の時に現在の地、久那瀬にアトリエを建て、2005 年に移住しました。2 階のアトリエの窓から一望できる景色を眺め、空の広がりや雲を観察し、畑を耕し、身の回りにいる小さな虫や鳥、さらに猫といった身近な動植物に触れ、それらがモチーフとなってキャンパスに登場するようになります。川崎にいたときよりも自然や人を愛するようになり、研ぎ澄まされながらも優しい眼差しで世界を観察するようになりました。久那瀬のすべてに魅了され、新たな絵を描き続けることができたということでしょう。

私は 2022 年 6 月から久那瀬に移り、4 年目になります。都会のビルや家が並ぶ景色とは異なり、那珂川町では山、土、川といった自然に囲まれた生活です。朝、太陽が昇る前の一瞬広がる空の色、また徐々に変化する夕焼けの色、夜空には、月、星たちが輝いています。そんな空が、夕日が私を誘うときは、カメラを持って車を走らせます。そのとき、私は「父も同じように夕日をみたのだろうか」と想い、亡き父と会話をします。

さて第 5 回 KEAT2026 では、アートディレクター海老塚耕一さんから企画会議において「豊重さんと栃木の作家たちの企画を立ち上げてくれないかな」と相談され、父とこの地において特に親しくしていただいた美術家の方たちに出品をお願いし、本展のキュレーションをさせていただきました。その上、海老塚さんに請われて私も出品することにしました。本企画が父・豊重の那珂川町への想いに通ずるものと同様であればと願っております。

キュレーター 渡辺 奈々

【賛助出品】 那珂川町馬頭広重美術館



## Ebizuka Koichi



海老塚 耕一

【アートディレクター】

展示場所

6

那珂川町馬頭広重美術館

(えびづか・こういち) 1951年神奈川県生まれ。1979年多摩美術大学大学院美術研究科修了。1986年第6回インド・トリエンナーレ ゴールド・メダルを受賞、1991年第15回平櫛田中賞を受賞、2001年「第19回現代日本彫刻展」神奈川県近代美術館賞を受賞、2003年タカシマヤ文化賞受賞。

## 住民とアーティストのコミュニケーションを深め 新しい美術展の在り方を模索する

栃木県那珂川町には、馬頭温泉郷(夕焼け温泉郷)があります。自然環境に恵まれた静かな保養地として多くの方に親しまれて来ました。温泉のある小砂地区にはこの地名を付けた小砂焼や菊炭など歴史的な文化財も残されています。また、歌川広重の作品群を所蔵し展覧する隈研吾設計の「那珂川町馬頭広重美術館」、アールブリット、アウトサイダーアートを主なテーマに掲げる日本で最初の美術館「もうひとつの美術館」、絵本を展示する「いわむらかずお絵本の丘美術館」があります。

同地で、2013年より始められた「小砂環境芸術祭」は若手の作家の参加と地域住民とのコミュニケーションを深める形でスタートし、13年の歳月を数えました。2022年は過去3回の活動記録集を上梓しました。前回よりアートディレクターに海老塚耕一氏を迎え新たな展開が始まりました。

【賛助出品】 藤田製陶所・いわむらかずお絵本の丘美術館・もうひとつの美術館



## Kimura Souyou



木村 爽陽

展示場所

4 5 7

藤田製陶所  
いわむらかずお絵本の丘美術館  
もうひとつの美術館

(きむら・そうよう) 1969年千葉県生まれ。1989年草月流入門。日本いけばな芸術協会北関東展、草月90周年記念展、水のないいけばな展等出展、2021～2023年 栃木県指定文化財 瀧澤家住宅にて野外竹アート制作、2022年 増上寺大殿ステージ舞台装飾制作参加、2023年草月作品賞受賞、外務省飯倉公館 レセプション会場で装飾制作。

## EVENT



小砂焼・春の陶器市

春の小砂焼各窯元作品の展示即売会。  
日時：5/3(日)・5/4(月) 9時～15時  
場所：藤田製陶所前の広場



お母ちゃんカフェ

小砂のお母ちゃん達による期間限定のCaféです。  
日時：5/3(日)・5/4(月) 10時～15時  
場所：KEAT2026 案内所



クロージングパーティー

KEAT2026 最終日にクロージングパーティーを行います。  
表彰式と懇親会を兼ねて、揚琴演奏の第一人者：金 亜軍さんによる演奏とお母ちゃんカフェによる素敵な軽食をご用意しております。  
日時：5/6(水) 14時～16時  
場所：小砂コミュニティセンター 参加：無料

# 出品作品リスト

## 【出品作家】

### 安藤 開

《ないのかたち》 サイズ可変 陶 2019～2026 ③よろこびの森  
陶という素材を通して、在ると無いの心地よい関係性を模索しています。陶に内包された空間が、子砂という場と、鑑賞者の内的世界と繋がり、豊かな時間が生まれることを願います。

### 伊藤 夏葉

《共生の染物 Dyed in Symbiosis》 サイズ可変 綿 天然染料 合成染料 蜜蝋 2026 ③よろこびの森  
「よろこびの森」の木や植物から一部抽出した天然染料で染めた布と合成染料で染めた布を絡ませ、自然と人工の共存関係を可視化した作品です。コーティングには蜜蜂の蜜蝋を用い、森との対話を重ねて生まれました。

### 井上 修策

《意識の樹齢》 サイズ可変 シュリンクラップ・ポート・丸フロートブイ・人骨模型など 2026 ②よろこびの森  
新しい存在は若葉のように軽く、古い存在は深い森のように豊かになる。そこに優劣はなく、存在の音色の違いがあるだけ。境界は“成熟の差”として静かに存在するが、線ではなく、流れであり、呼吸であり、成長となる。

### 梅浦 康平

《Play GROUND》 2300×1600×300 発泡スチロール、アクリル絵具 2026 ③よろこびの森  
森は想像力の遊び場。息子の描いたロボットを起点に、光を受け止める白い像を立ち上げた。里山の光と地面の色に照らされ、光の移ろいの中で像が立ち上がる関係を試みている。環境とのあわいに像を置き、見る人の想像が、再び立ち上がることを願っている。

### 河本 蓮大朗

《光布》 サイズ可変 織り、ビニールシート、杭 2026 ③よろこびの森  
ホームセンターで入手したビニールシートを裂き、あえて非効率な「織る」行為で布へと変換する。見過ごされがちな素材や行為にもう一度時間を与え、森に一時的な人工の光景、風景の皮膚を生み出す。

### 木下 敦也

《観測点》 3160×3800×2800 木 2026 ③よろこびの森  
長い時間のほんの一瞬にだけ、世界を見つめるため、もしくは自分を見つめるために、この小砂の地に存在させる。この美しい土地に自分の作品がどう融合するのか見てみたい。

### 齋藤 千明

《Last Note》 サイズ可変 和紙に水性木版画、顔料、蒟蒻糊、アクリル樹脂、綿糸、スチールワイヤー 2026 ③よろこびの森  
木々のざわめきに身をひらく。消えた存在が空間に残す余韻と気配が、森の奥でふと立ち上がる。そのかすかな兆しにそっと触れ、見えない存在の記憶をすくい上げる試み。

### 齋藤 弥主子

《関係の命題》 サイズ可変 木材、モルタル、ミクストメディア 2026 ③よろこびの森  
作家の身体にまつわる記憶と具象を通して想起される抽象性との関係について

### 柳澤 貴彦

《Not Yet Resonating》 サイズ可変 セラミック、木、ワイヤー 2026 ③よろこびの森  
森の地から立ち上がる土の筒が、風に応じてわずかに鳴る。音そのものではなく、その気配に耳を澄ます時間を通して、環境へとひらかれる感覚を促す装置である。

### 若林 夏欧

《空の雲に乗って時間は流れる》 サイズ可変 土・布・鉄 2026 ③よろこびの森  
小砂の話聞いたのは2024年の夏だった。家族に「砂」がつく人がいたのでいよいよ野外の展示は初めてで、これからの作家活動に何か役に立つかもしれないと思ったのと、大自然に囲まれた里山で自分の作品がどう馴染むか楽しみである。

## 【関連企画展『豊重さんと栃木の作家たち』出品作家】

### 有坂隆二

《虹のかがみ〜旅人かえらず》 サイズ可変 木・ステンレス・アクリル絵具・和紙 2026 ②旧馬頭西小学校音楽室  
小砂への応答、そして2023KEAT開催中に急逝された渡辺豊重さんに捧げたい。

### 岩本拓郎

《原初の音-3》 800×1200 キャンバスにアクリル絵具 2026 ②旧馬頭西小学校音楽室  
描くことによって世界を生み出したい。光を現したい。

### 高野 弘文

《無題》 P10 油彩、ピグメント、胡粉 2000 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《無題》 F15 油彩、ピグメント、胡粉 2000 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《無題》 590×450cm 油彩、ピグメント、胡粉 2004 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《無題》 P15 油彩、ピグメント、胡粉 2000 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《無題》 P12 油彩、ピグメント、胡粉 2000 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《無題》 P15 油彩、ピグメント、胡粉 2000 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《無題》 420×300 墨絵 1998 ②旧馬頭西小学校音楽室

### 渡辺豊重

《サンシャワー》 F100 キャンバス、アクリル、オイルパステル 2000 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《夏の光と影》 F100 キャンバス、アクリル、オイルパステル 2007 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《記憶の旅から 「はるかなルパドゥヴァの夢」(Ⅲ)》  
F100 キャンバス、アクリル、オイルパステル 2005 ②旧馬頭西小学校音楽室

### 渡辺 奈々

《待っている-1》 1300×1100 アルシュ紙、パステル 2026 ②旧馬頭西小学校音楽室  
《待っている-2》 1300×1100 アルシュ紙、パステル 2036 ②旧馬頭西小学校音楽室  
2022年6月から川崎から来て、久那瀬で猫3匹と一人の暮らしをしている。庭には、スズメ、ヒヨドリ、コジュケイ、ツバメが飛んでくる。日々、変わっていく自然豊かな景色に魅了されている。

## 【賛助出品作家】

### 海老塚耕一

《ゆらぎ・水と光りの積分ー小砂から》 120×1050×10200  
小砂の水・小砂の土・鉄・アルミニウム・ゴム・木（アソベ）・クリスタルワックス 2023 ⑥那珂川町馬頭広重美術館  
五カ所の小砂の水と小砂の土の上に錆が落ちていく。風がそれらを混合。ひとつの装置があるがままの素材の姿を連結していく。  
(展示場所の詳細未決定のため参考ー前回出品作)

### 木村爽陽

《風踊る》 3000×2500×2500 真竹・番線 2026 ①藤田製陶所  
心地よい風が舞い踊る小砂の風景を表現しました。  
《優しい命》 2000×2000×2000 雑木、ガラス、ワイア 2026 ④いわむらかずお絵本の丘美術館  
里山から生まれる小さな命、雑木林の中の尊い生き物たちの営みをイメージしました。  
《時を刻む》 1800×1500×1500 雑木、陶の破片、ワイア 2026 ⑤もうひとつの美術館  
小砂でつくられた陶器の破片を使用し、街の歴史や時の流れを回想してみました。

### ※

### 作家名

《タイトル》 サイズ (H×W×D mm) 素材 制作年 場所

### 制作メモ

## 「KEAT2026 美術・集落・風—小砂の森」展の賞に関して

「KEAT2026 美術・集落・風—小砂の森」展には前回と同様に従来の「大賞」は設けませんが、渡辺豊重氏の意味を敬承するために「渡辺豊重賞」を設けることにしました。多様化を謳われる現代において、ひとつの作品を選択することは不可能であり、作品に対して誠実ではないと考えます。本展に出品することですでに選択されており、その上に善し悪しを、あるいは優劣を決することには、それなりのきちんとした整合性が必要でしょう。現在の世界は多種多様な眼差し・思想が存在します。そこが大切であると本展実行委員会は考えました。そこですべての賞は、賞を出す個人・団体に選考を委ねることにしました。したがってここでの賞は順位ではないことをご理解いただき、ご鑑賞いただければ幸いです。

## 展覧会歴／賞歴

### KEAT 小砂環境芸術祭 2013

会期 2013年4月29日(月)～5月6日(月)  
開場時間 9:00～17:30(最終日のみ15:00まで)  
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所  
鑑賞 無料  
出展アーティスト 青木 香保里 / 浅井 充 / 井口 雄介 / 伊藤 沙織 / 稲垣 侑子 / 原 佳史 / 松尾 ほなみ / 松尾 美森 / 森 洋樹  
アートディレクター 小佐原 孝幸  
KEAT 実行委員長 藤田 清  
主催 KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会  
協力 小砂 Village 協議会  
後援 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社

審査結果  
審査委員長 渡辺 豊重  
審査委員 小勝 禮子  
大賞  
松尾 ほなみ 《都市の残像》  
那珂川町長賞  
井口 雄介 《キョウカイヨコエテ》  
那珂川町議会議長賞  
青木 香保里 《境界》  
那珂川町観光協会議長賞  
原 佳史 《軸になる辺》  
小砂特別賞  
稲垣 侑子 《土地ドレコレクション》

### KEAT 小砂環境芸術祭 2016

会期 2016年4月30日(土)～5月7日(土)  
開場時間 9:00～17:00(最終日のみ14:00まで)  
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所  
鑑賞 無料  
出展アーティスト 安齋 歩見 / 稲垣 侑子 / 隅 沙織 / 田川 岳 / 田中 彰 / 田原 唯之 / 玉田 多紀 / 八木 麻里 / 渡邊 透真  
アートディレクター 小佐原 孝幸  
KEAT 実行委員長 藤田 清  
主催 KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会  
後援 小砂 Village 協議会 / 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社 / NPO 法人美しい日本の森と藝術

審査結果  
審査委員長 渡辺 豊重  
大賞  
田原 唯之 《最も関わりのある場所 - 光の庭 -》  
渡辺豊重賞  
八木 麻里 《めたるふらわぁ》《あんたいとる》  
那珂川町長賞  
隅 沙織 《覗くタコ》  
那珂川町議会議長賞  
玉田 多紀 《おかしなキノコ》  
那珂川町教育長賞  
渡邊 透真 《Gateway》  
那珂川町観光協会議長賞  
田中 彰 《イチョウの話》  
小砂特別賞  
稲垣 侑子 《土地ドレコレクション》

### KEAT 小砂環境芸術祭 2019

会期 2019年4月27日(土)～5月6日(月)  
開場時間 10:00～16:00(最終日のみ14:00まで)  
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所  
鑑賞 無料  
出展アーティスト 高山 瑞 / 白田 那智 / 田原 唯之 / 船山 哲郎 / 松尾 ほなみ / 宮本 一行 / 渡邊 透真  
アートディレクター 小佐原 孝幸  
KEAT 実行委員長 笹沼 享一  
主催 NPO 法人美しい日本の森と藝術 / KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会  
協力 小砂 Village 協議会 / 小砂行政区学校保存会 / お母ちゃん Café  
後援 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社

審査結果  
審査委員長 渡辺 豊重  
審査委員 小勝 禮子  
大賞  
高山 瑞 《泉・根の国》《森の陰画》  
美森賞  
松尾 ほなみ 《かくれんぼ》  
那珂川町長賞  
白田 那智 《TO CONNECT THE INSIDE AND THE OUTSIDE》  
那珂川町教育長賞  
船山 哲郎 《ひとつながりの長椅子 / 共生の跡》  
那珂川町議会議長賞  
渡邊 透真 《春の木の眺め》  
那珂川町観光協会議長賞  
宮本 一行 《感覚風景の陰陽》  
小砂特別賞  
田原 唯之 《KKKKKK》

### 第4回小砂環境芸術祭 KEAT2023

美術・集落・風—小砂の森  
会期 2023年4月29日(土)～5月7日(日)  
開場時間 9:00～17:00(最終日のみ14:00まで)  
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所  
鑑賞 無料  
出品作家 阿久津 溪 / 市川裕司 / 内山翔二郎 / 亀元 円 / 木村剛士 / 構想計画所 / 佐々木玲奈 / ジャン・ピンナ / 五月女かおる / 松尾ほなみ / 渡邊透真  
招待出品作家 有坂隆二 / 岩本拓郎 / 木村爽陽  
賛助出品作家 海老塚耕一 / 渡辺豊重  
アートディレクター 海老塚耕一  
KEAT2023 実行委員会 代表・笹沼享一  
副代表・藤田 清

委員 有坂隆二 / 岩本拓郎 / 大川欽也 / 大野正勝 / 木村爽陽 / 藤田悦男 / 藤田真一 / 村樫信行  
総合プロデューサー 大熊貞雄  
特別顧問 渡辺豊重  
主催 KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会 / NPO 法人美しい日本の森と藝術  
協力 那珂川町馬頭広重美術館 / 小砂 Village 協議会 / お母ちゃん Café  
後援 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社 / 読売新聞宇都宮支局

審査結果  
審査委員 小勝 禮子 (美術史、美術批評) / 大野正勝 (那珂川町馬頭広重美術館館長)  
町長賞  
構想計画所 《習慣》  
議長賞  
阿久津 溪 《増殖の力学》  
教育長賞  
渡邊 透真 《一陽來復》  
観光協会議長賞  
五月女 かおる 《食事の風景》  
商工会長賞  
松尾 ほなみ 《残像》

## KEAT、破壊を前提としない日常のなかで

2022年の12月半ばに初めて小砂を訪れ、実行委員会の方々とお目にかかったとき、残された作品群を拝見する前に集落の方々の眼差しが作品を作っていると、素直に感じました。それは鑑賞後はっきりと確信できました。その集落の方々の眼差しは今でも絶えることなく続いています。集落の方々が制作する作家の姿に興味を持ち、その上で作品を鑑賞したことで、このような「場」がそして日常が表出したのだと素直に感じました。有機的な都市には、現在では見ることでできない「死」の日常がありました。そしてそれが都市においては自然性のひとつとしての実体でした。逆に、取えて田舎という言葉を使いますが、有機的な田舎には「生」の日常がありました。それが田舎の自然性のひとつとしての実体です。大自然なんて言う陳腐な言葉で表すことのできない、人間も共に生きる「自然」の実体です。ここ小砂の地に触れたとき、有機的な「生」が残っている「場」と見えました。ここで美術が息をしたならどれだけ素敵かを思いました。

集落の方々が美術に作品に興味を持ったということは大切なことです。何かしらの楽しさが見えたとき、何かしらの芽生えが可能である事を、集落の方々の行動は僕に教えてくれました。美術家である僕、プロデューサー・ディレクターとしての僕、そして〇〇としての僕のあり方を考え直す良い機会でした。美術至上主義の上から目線の美術展には辟易としていたので、ここで集落の方々と行動することは考えるための願ってもない機会でした。大学で展覧会を構築するゼミを38年行ってきた身としては、形式的な「展」とは異なる形の構造のなかで仕事をし、考えたいという気持ちがありました。地元の方々の話を聞き入れて美術展を構築するという自在さは今までの美術展ではできなかったし、集落の方々が外野ではないという、そのような可能をより形にしたいと考え始めました。

たくさんの障害があることは確かです。「美術展」なのだからそれはあたりまえでしょう。高層化された都市は土から離れて浮遊しているようです。歩くことよりも浮かんでいることが意識されます。落ちていくことと「死」が結びれています。鳥瞰できる都市は破壊のイメージを育みました。それは破壊と消滅への感受性を鋭敏にさせました。都市は破壊と再生を繰り返します。それは多様な現代の組織にも言えることです。使い捨ての文化です。連続性というものがない世界です。個のアイデンティティは無意味さのなかに散乱して行くだけでしょう。そこで「美術」はどのような意味を求めるのでしょうか。僕は疑問を感じています。「アート」と言われることに反発もします。生産されると同時に消費される都市と「アート」は密接な関係を持っています。連続性が途絶えたなかで。小砂では「美術展」を開催します。「美術」が生きる場所とする意思を持って企画を進めています。そしてもうひとつ、この地域を使いこなすリテラシーが生まれることを期待しています。

小砂という地域・領域を生きるための道具として使いこなしていくことで、土から離れて連続性を失った都市には作ることができない、破壊を前提としない日常がここでは生成しています。そんな日常に美術・藝術が生活の大切な要素として含まれていることがあたりまえであることを証明するための新たな始まりが「KEAT—美術・集落・風—小砂の森」でありたいと考えています。

(KEAT2023より継承する展覧会のためのメッセージ)

【アートディレクター】海老塚耕一

KEAT2026 実行委員会

【委員長】 藤田眞一

【副委員長】 村樫信行

【委員】 大川欽也

大野正勝

笹沼享一

藤田清

渡辺奈々

【アートディレクター】 海老塚耕一

【総合プロデューサー】 大熊貞雄

【冊子デザイン】 構想計画所

発行日：2026年4月25日

発行：KEAT2026 実行委員会

〒324-0611

栃木県那須郡那珂川町小砂3102

TEL：0287-93-0811 FAX：0287-93-0315

印刷：株式会社プリントパック



里  
山  
が  
美  
術  
館

